



日時 : 令和5年10月22日(日) 14:00~17:10
 会場 : 久留米シティプラザ ザ・グランドホール
 主催 : 筑後川本格改修100周年記念事業実行委員会
 筑後川本格改修100周年連絡会
 後援 : (公財)筑後川水源地域対策基金
 来場者: 約500名

暴れ川と言われてきた筑後川の本格的な河川改修のため、筑後川改修事務所が
 大正12(1923)年7月に開設され100周年を迎えた。
 先人の尽力の結果、筑後川は治水・利水両面で大きく改善したが、気候変動の影響も
 受け、依然として水害や土砂災害のリスクをはらんでいる。
 筑後川とともにある私たちの暮らしをこれからも守るため、今何が必要なのか。「流域
 治水」に取り組み、強くしなやかな地域とするために「官」と「民」がどう手を携えてい
 くのか語り合い、北部九州の豊かな未来につなげていくシンポジウムを開催。

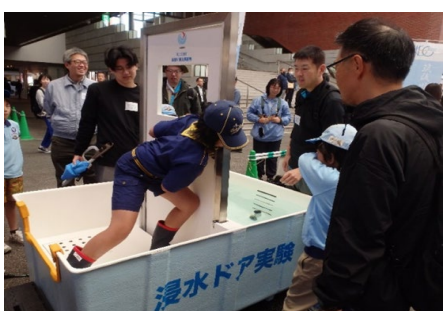
同時開催：筑後川わくわくフェスタ



原鶴温泉鶴飼ショー



天ヶ瀬温泉足湯



展示ブース
(浸水ドア体験)



展示ブース
(有明海の海苔網)

第1部 対談「筑後川と生きる 今培うべきこと」



東日本大震災語り部の菊池のどかさんと原口新五久留米市長による対談。



東日本大震災語り部
菊池のどかさん



久留米市
原口新五市長

対談の中心となったのは「災害への備え」。原口市長は久留米市の浸水対策を紹介し、「筑後川に一気に水を流さないよう市でできることをしっかり行う」と強調。菊池さんは東日本大震災の大津波を逃れた経験から「想定を上回る災害を念頭に置くべきだ」と訴えた。



福岡を中心に活躍するタレント
(2023年福岡市水道局公式アンバサダーに就任)
中島浩二さん

本シンポジウムにおいて、コーディネーターとしてご登壇いただいた。

第2部 パネルディスカッション「筑後川と描く地域の未来」



筑後川に関わる識者4名と吉田所長でパネルディスカッションを実施。



(左から)原鶴温泉旅館協同組合長 井上善博さん、前東峰村長 澁谷博昭さん、筑後川の未来地図を描こうプロジェクト 古賀円さん、九州大学工学研究院 馬奈木俊介教授

井上さんは、観光振興のため、川の近くでアウトドアを行うなどの「リバーツーリズム」を提唱。

馬奈木教授は、防災関連のインフラなどの価値を数値化することで、その社会的な必要性を分かりやすく示すことができる新しい経済指標について紹介。

澁谷さんは「森を生き返らせないと河川も生きない」と森林の管理も重要と主張。また、魚の住む自然豊かな川づくりを提唱。

古賀さんは、「次の100年で筑後川を通して何を生み出していけるのかを、仲間たちと考えていきたい」と話した。

筑後川の未来地図を描こうプロジェクトの取組発表



筑後川の未来地図を描こうプロジェクトの取組発表では、上流から下流まで様々な方の現況や想いを発表。今後の「筑後川の未来地図を描こうプロジェクト」の役割について発表していただいた。



筑後川の未来宣言 「こどもたちによる宣言」



生野ひなたさんから夢プランを受け取る吉田所長



筑後川の未来宣言フィナーレ

未来宣言に登壇していただいた「筑後川の未来」絵画コンテストの受賞者を代表して、生野ひなたさんが宣言を行った。

こどもたちが描いてくれた夢プランが吉田所長に渡され、次の100年に向けた宣言を行い、シンポジウムは閉会した。